

Winmostar チュートリアル
LAMMPS
ガラス転移温度算出(ポリマー)
V8.000

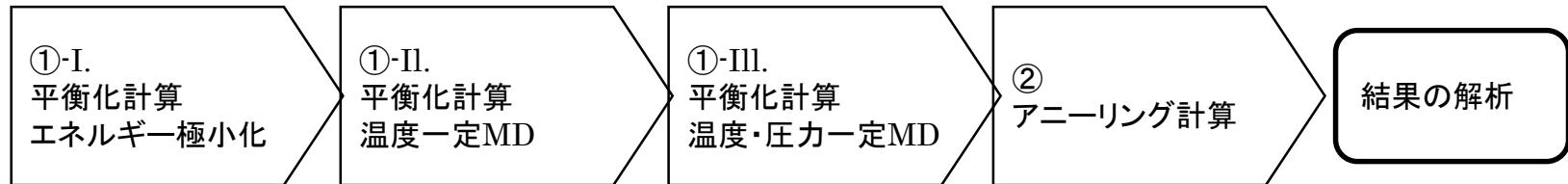
株式会社クロスアビリティ

question@winmostar.com

2017/10/01

概要

- ポリプロピレン溶融体の冷却過程からガラス転移温度を算出します。処理のフローを以下に示します。温度・圧力一定MDは、平衡化に掛かるステップ数を短縮するために、一旦高圧(200 atm)に制御した後常圧に戻します。



注意点:

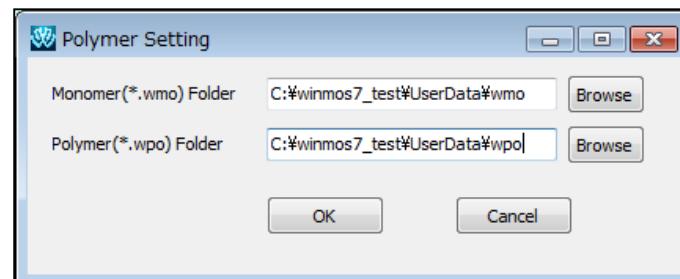
- 分子の種類、初期密度に応じて平衡化に必要なステップ数は変化します。
- 相互作用の計算方法、力場、電荷の算出方法も結果に影響を与えます。
- 重合度(鎖長)、降温(昇温)速度も結果に影響を与えます。
- チュートリアルという性質上、ここではポリマー系の平衡化に十分なステップ数の計算を実施しません。

環境設定

- LAMMPS及びCygwinの入手とセットアップ
以下のリンク先の「Windows版LAMMPSのインストール手順」に従い、LAMMPSおよびCygwinをセットアップする。
https://winmostar.com/jp/manual_jp.html



- ポリマーツールの設定
[MD]->[ポリマー]->[設定] (下図)で、必要に応じてモノマーファイル(拡張子.wmo)とポリマーファイル(拡張子.wpo)の格納フォルダを指定する。

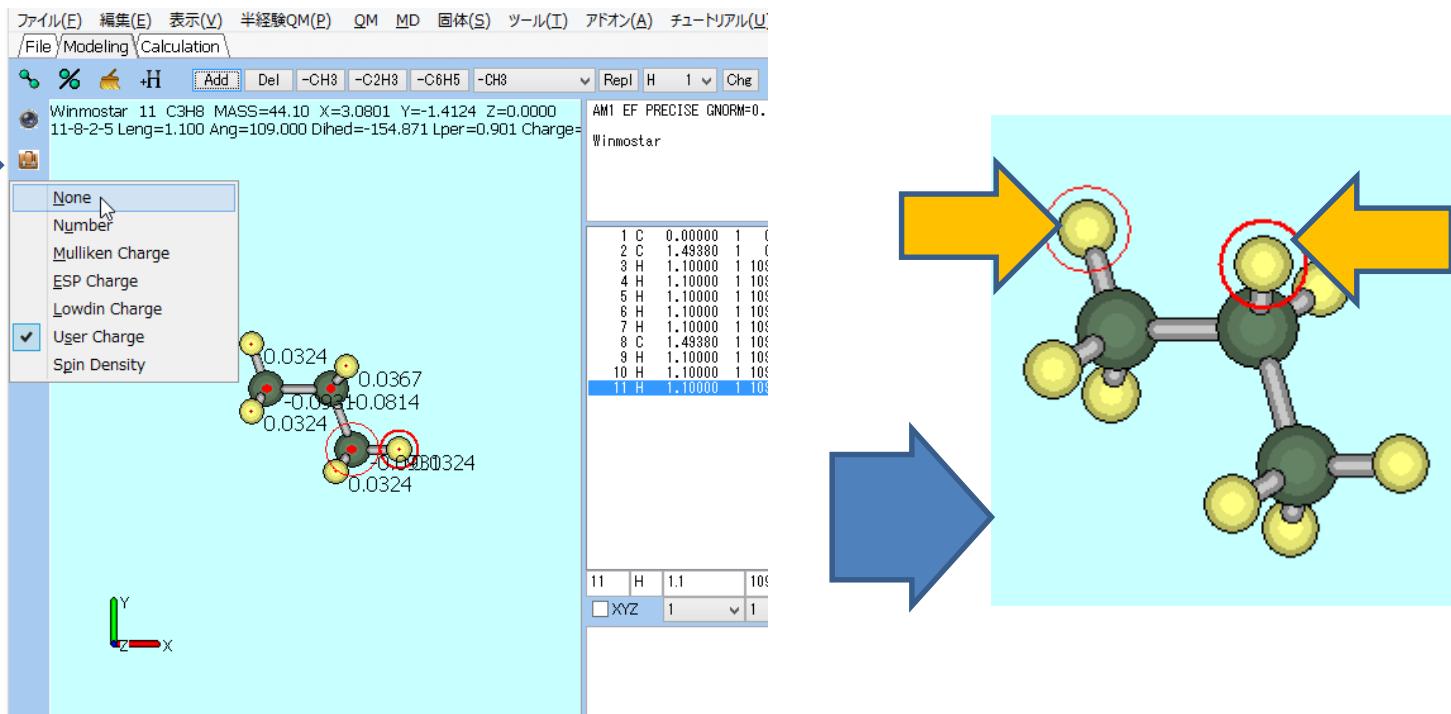


I. モノマーを登録

まず、ポリプロピレンのモノマー（プロパン、 C_3H_8 ）をメイン画面上で作成する。

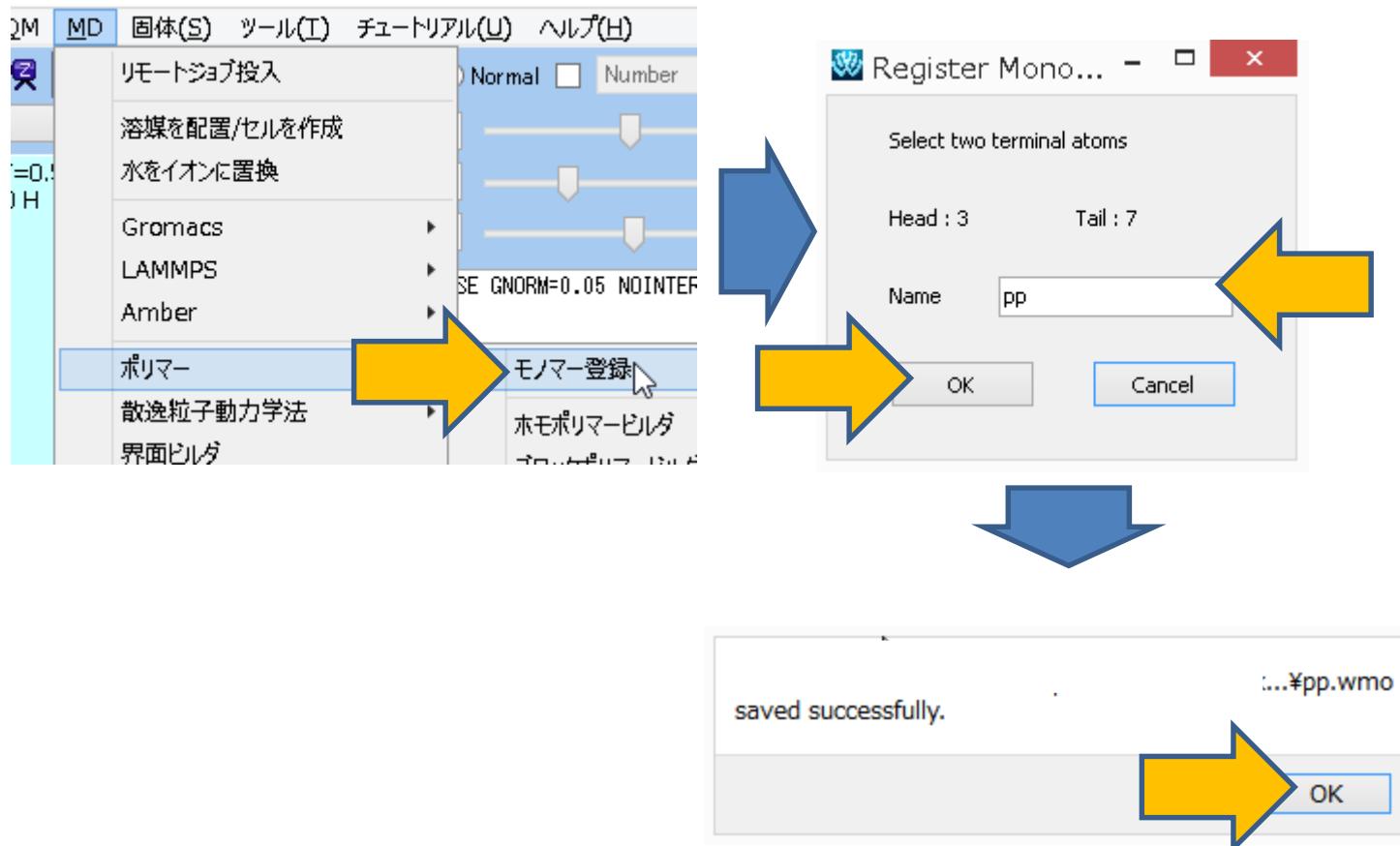
次に、[MD] - [電荷割り当て] - [acpypeを使用]で[Execute]を押す。

電荷を非表示にしたい場合はメイン画面左のアノテーションボタンで「None」を選ぶ。
 最後に、重合した際に隣のモノマーと結合する2箇所を続けて左クリックする。



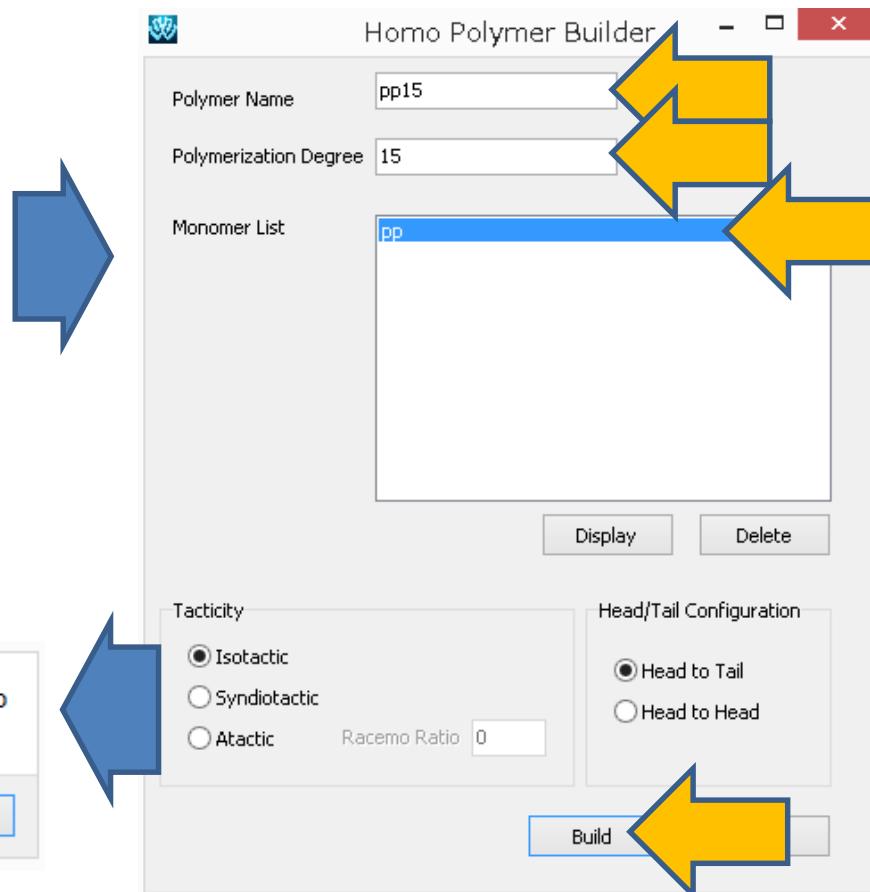
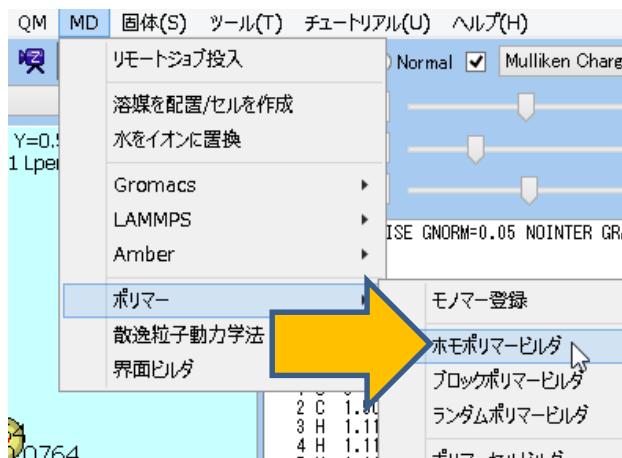
I. モノマーを登録

[MD]-[ポリマー]-[モノマー登録]にて、「Name」に「pp」と入力し「OK」とする。
登録が成功した旨を伝えるダイアログが出現するので「OK」とする。



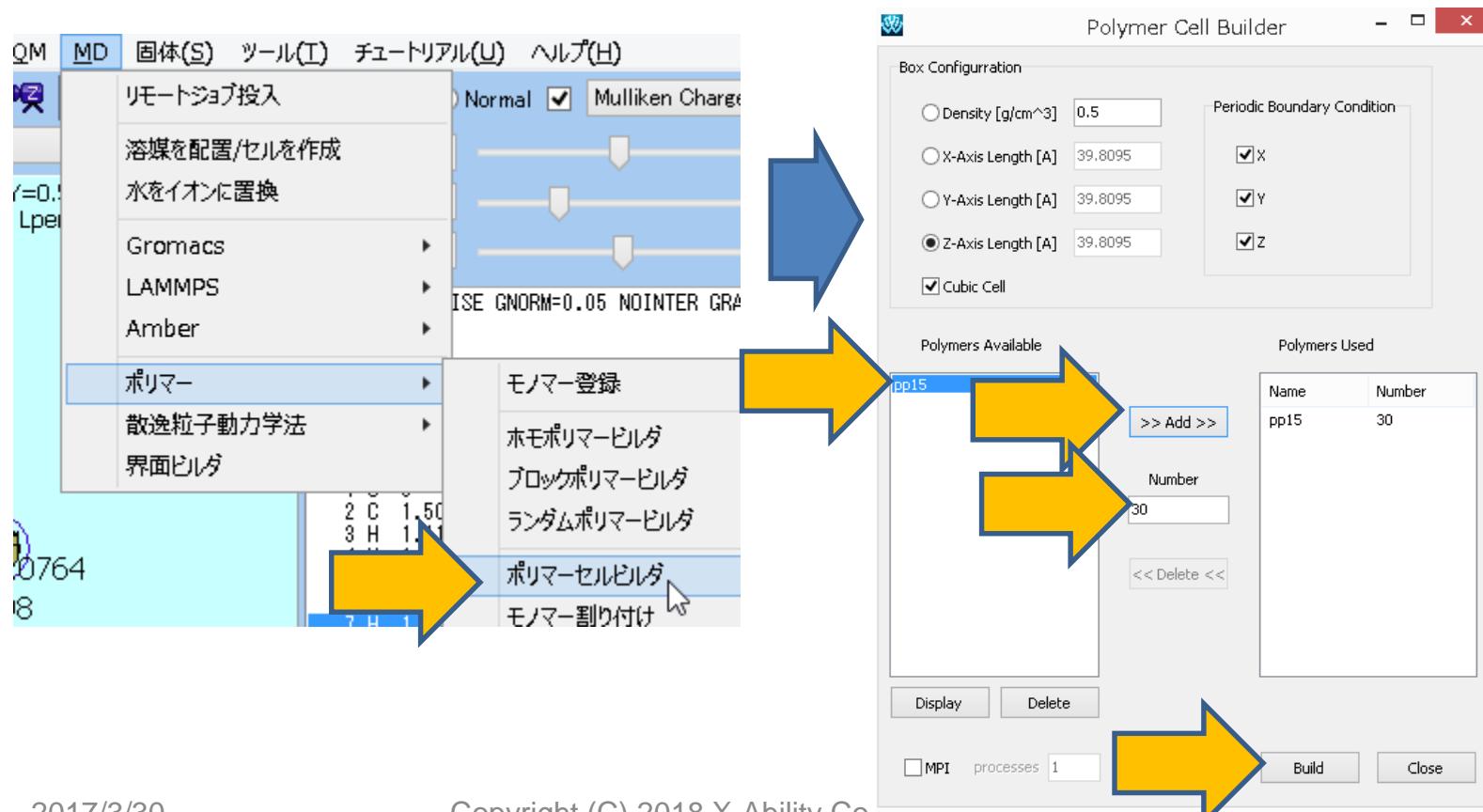
II. ポリマーを定義

[MD]-[ポリマー]-[ホモポリマービルダ]にて、「Polymer Name」に「pp15」、
 「Polymerization Degree」に「15」、「Monomer List」で「pp」を選択し、「Build」し、
 「Close」する。



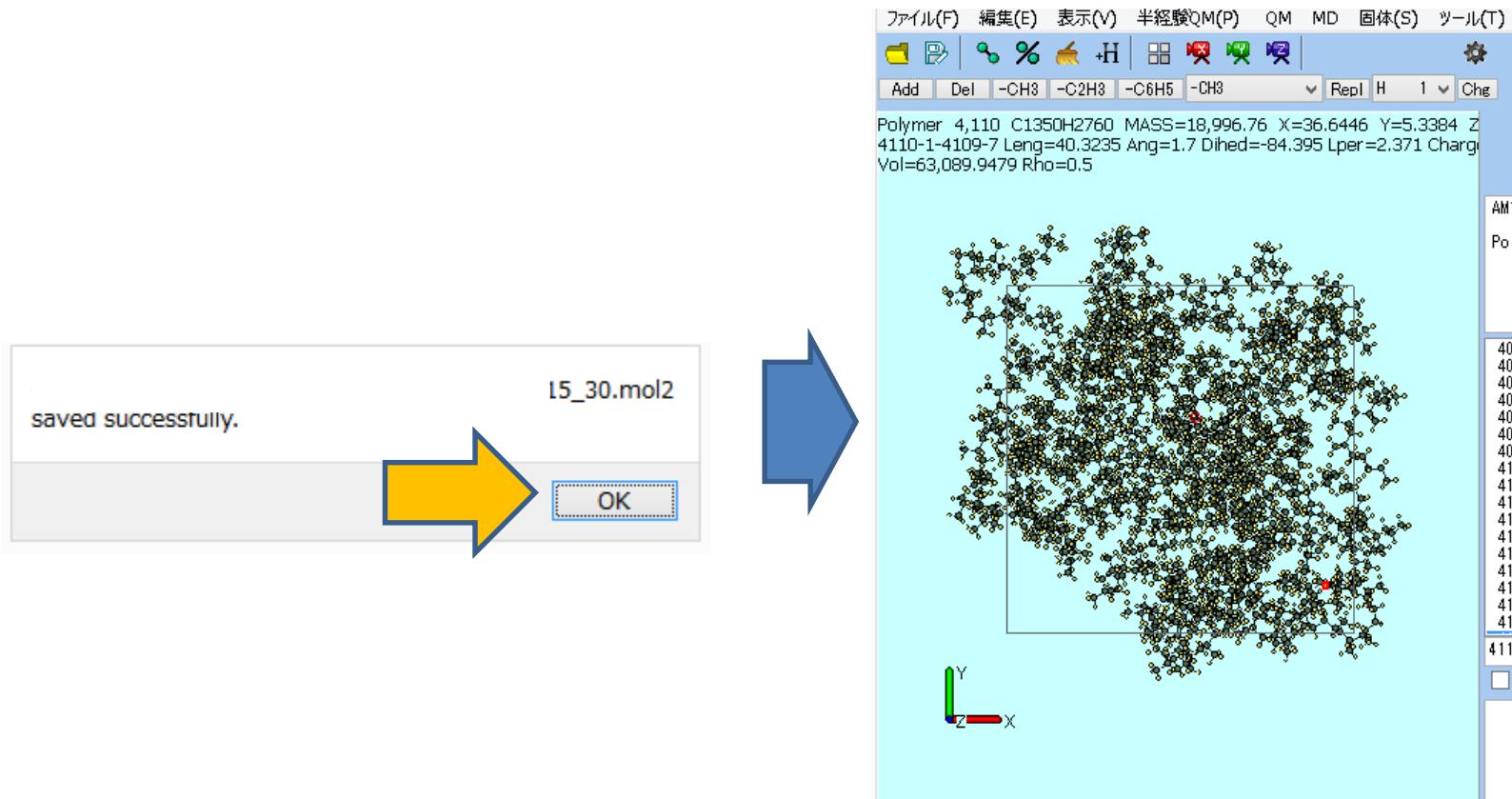
III. 系を作成

[MD]-[ポリマー]-[ポリマーセルビルダ]にて、「Polymers Available」から「pp15」を選択し、「Number」を「30」とし「Add」する。その後「Build」する。
保存時のファイル名は仮に「pp15_30.mol2」とする。



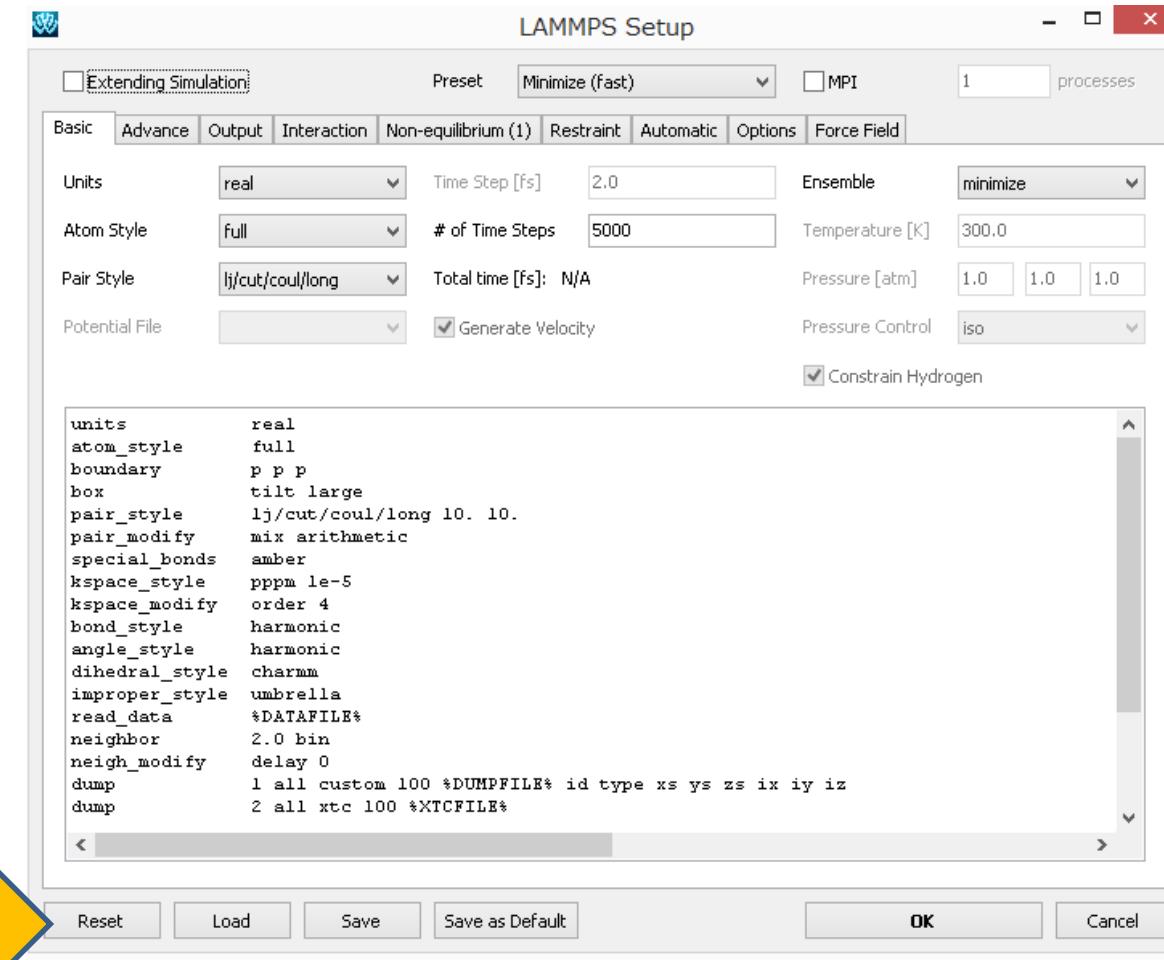
III. 系を作成

作成が成功したことを告げるダイアログを閉るとメイン画面に系が表示される。
ポリマーセルビルダは「Close」する。



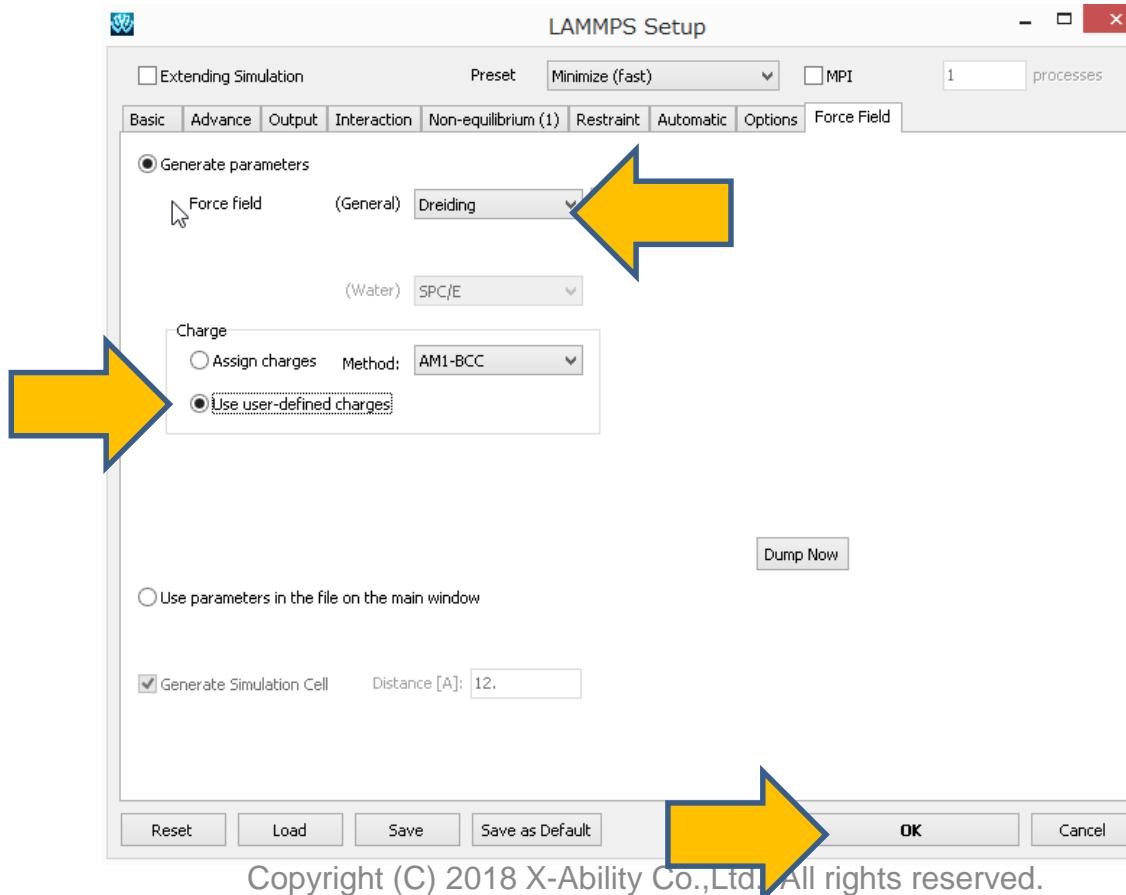
IV. 平衡化計算

[MD]-[LAMMPS]-[キーワード設定]を開き、「Reset」をクリックする。



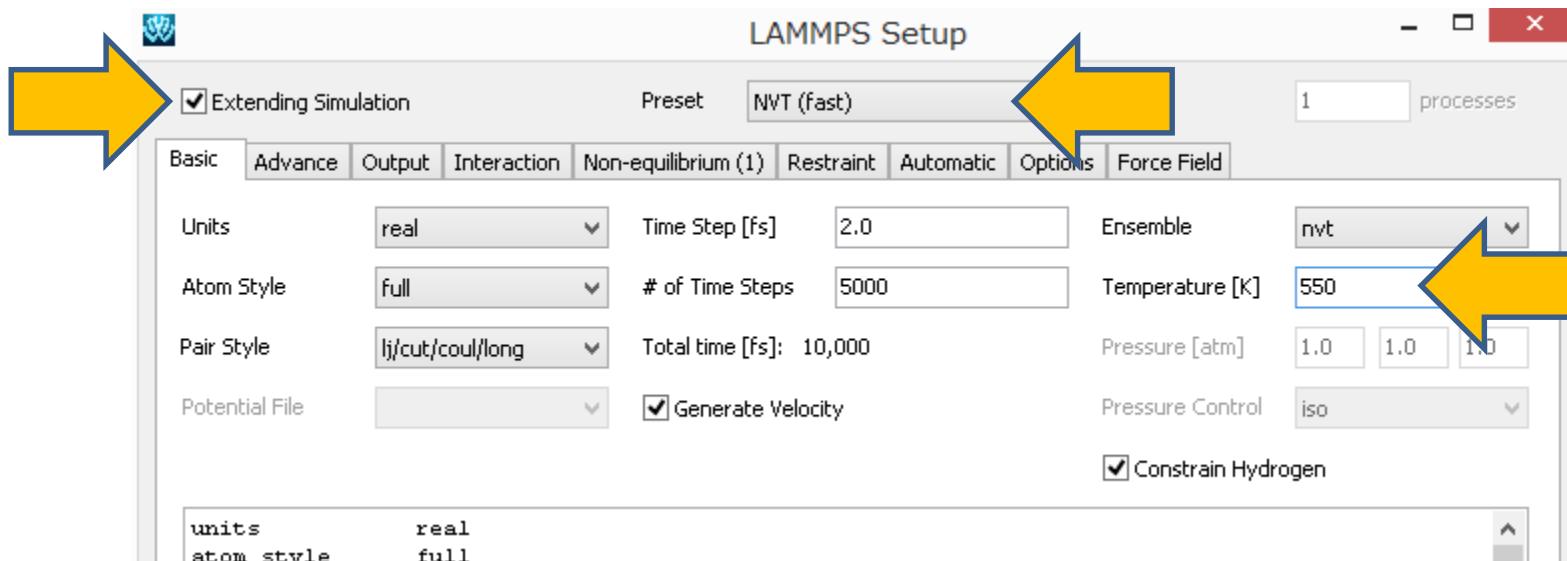
IV. 平衡化計算

「Force Field」タブを選択し、「Force Field」に「Dreiding」、「Charge」に「Use user-defined charges」を選択し、「OK」する。
その後、[MD]–[LAMMPS]–[LAMMPS実行]とする。



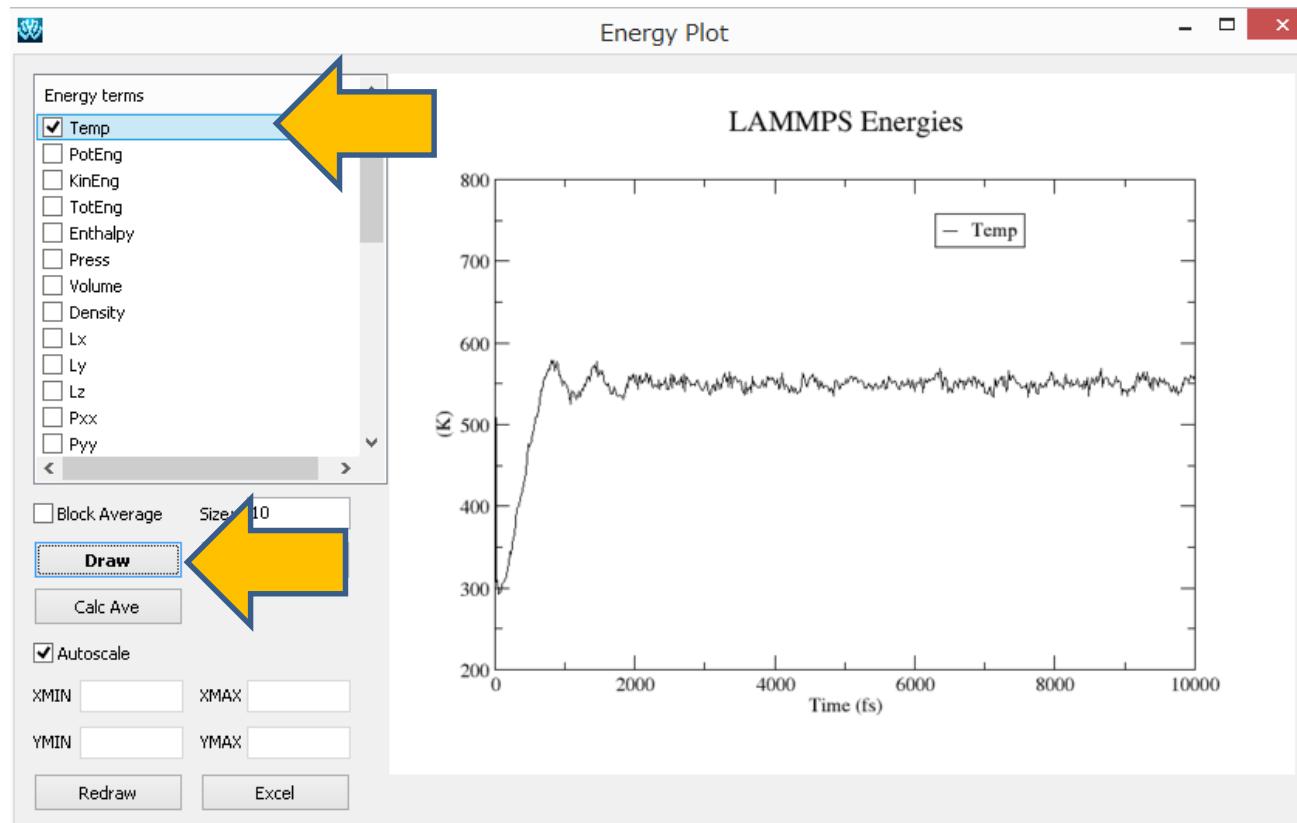
IV. 平衡化計算

計算終了後、同様に[MD]–[LAMMPS]–[キーワード設定]を開き、「Extending Simulation」にチェックを入れ、「Preset」に「NVT (fast)」を指定し、「Temperature」は「550」に変更して「OK」ボタンを押す。
その後、[MD]–[LAMMPS]–[LAMMPS実行]とする。



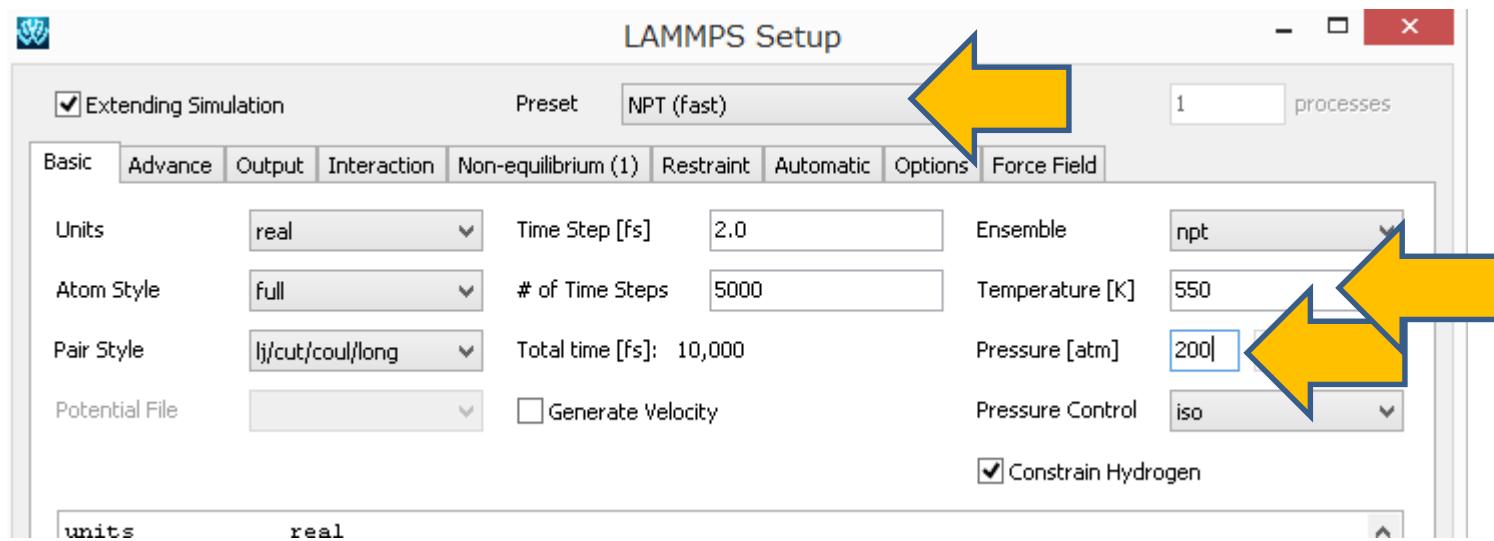
IV. 平衡化計算

計算終了後、[MD]-[LAMMPS]-[エネルギー変化]にて、デフォルトで選ばれるファイルを選び、「Energy Terms」にて「Temp」にチェックを入れ「Draw」し、温度が目標温度付近に制御されていることを確認する。その後「Close」する。



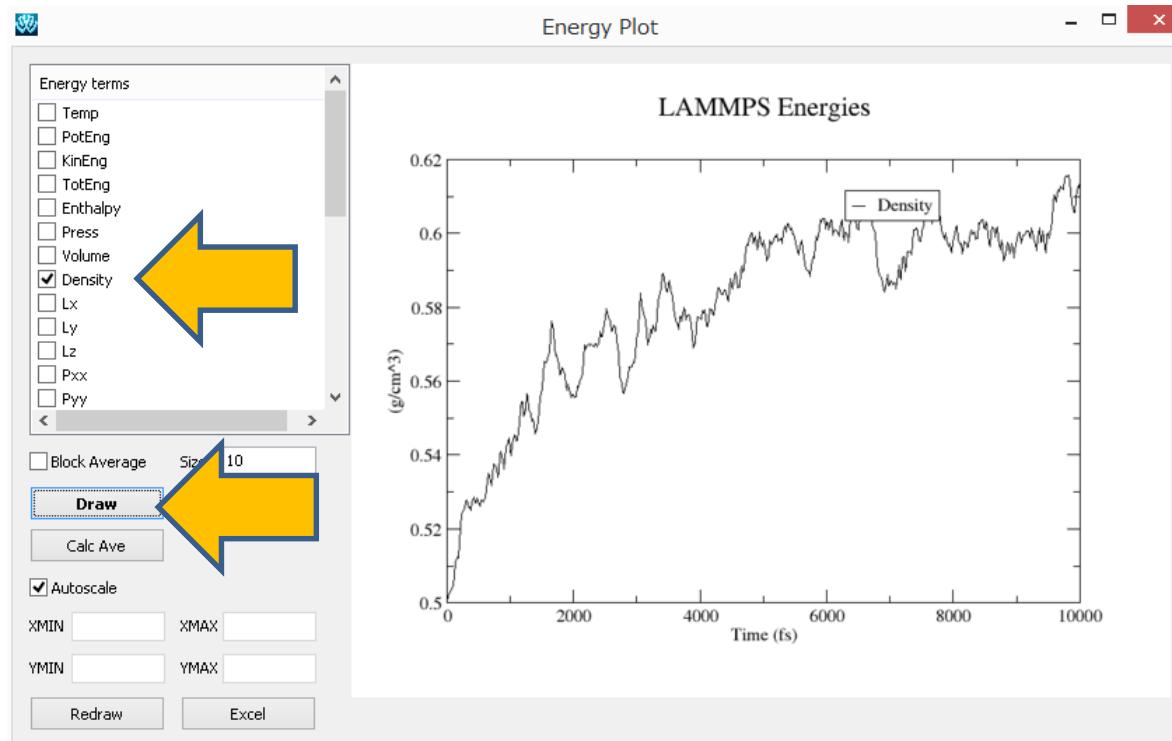
IV. 平衡化計算

[MD]-[LAMMPS]-[キーワード設定]を開き、「Preset」に「NPT (fast)」を指定し、「Temperature」を「550」、「Pressure」を「200」に変更し、「OK」ボタンを押す。その後、[MD]-[LAMMPS]-[LAMMPS実行]とする。



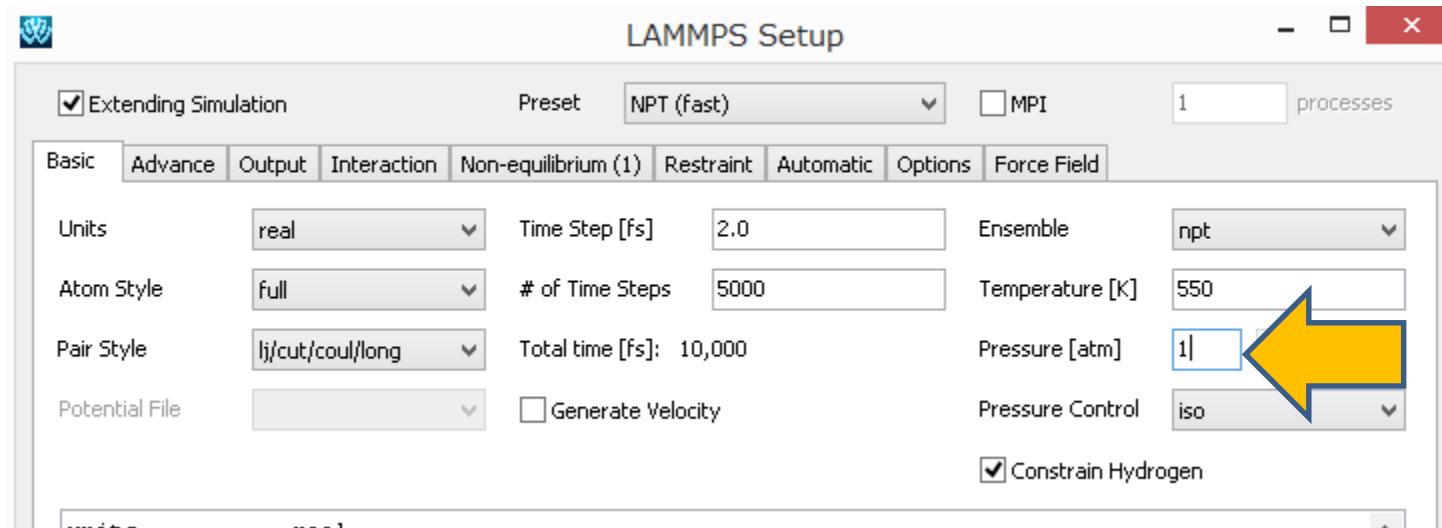
IV. 平衡化計算

計算終了後、[MD]-[LAMMPS]-[エネルギー変化]にて、デフォルトで選ばれるファイルを選び、「Energy terms」にて「Density」にチェックを入れ「Draw」し、密度が一定値付近に収束していることを確認する。その後「Close」する。
(今回の結果からは収束しているとは判断し難いが、ここではチュートリアルのためそのまま先に進む)



IV. 平衡化計算

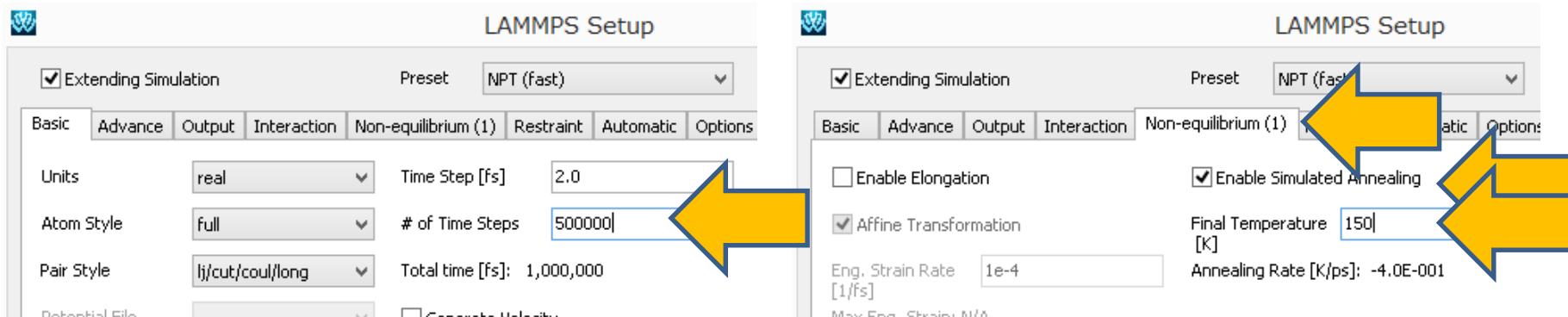
[MD]-[LAMMPS]-[キーワード設定]を開き、「Basic」タブの「Pressure」を「1」とし、「OK」する。
その後、[MD]-[LAMMPS]-[LAMMPS実行]とする。



V. アニーリング計算

次に、ガラス転移温度算出を目的として、アニーリング(温度を徐々に下げる)計算を行う。

[MD]-[LAMMPS]-[キーワード設定]を開き、「Basic」タブの「# of Time Steps」を「500000」(計算時間を短縮したい場合は小さい値に設定)とし、「Non-equilibrium (1)」タブの「Enable Simulated Annealing」にチェックを入れ、「Final Temperature」を「150」にし、「OK」する。
 その後、[MD]-[LAMMPS]-[LAMMPS実行]とする。

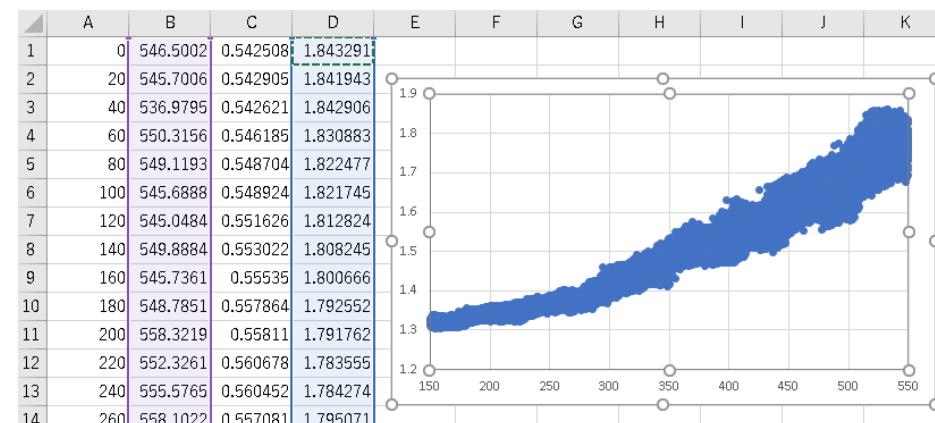
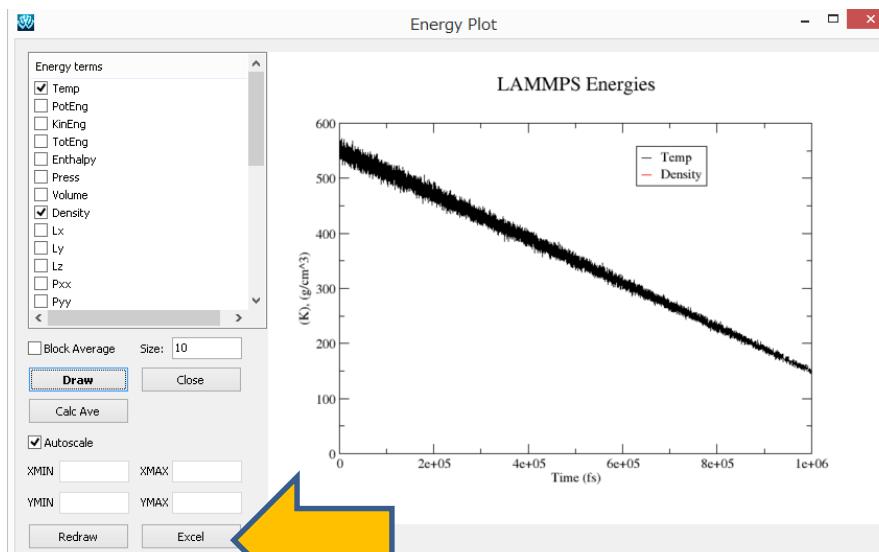


V. アニーリング計算

計算終了後、[MD]-[LAMMPS]-[エネルギー変化]にて、デフォルトで選ばれるファイルを選び、「Energy Terms」にて「Temp」と「Density」にチェックを入れ「Draw」し、「Excel」を押す。

出力されたcsvファイルの2カラム目を横軸、3カラム目の逆数を縦軸にプロットすると、温度-比容(specific volume)曲線が得られる。

各種のフィッティングでこの曲線の変曲点(250~300K付近)を求めると、それがガラス転移温度の推測値となる。



facebook アカウント登録 メールアドレスまたは携帯番号 パスワード
■ ログインしたままにする ログイン パスワードを忘れた場合 ログインヘルプ

X-Ability Co.,Ltd.
さんはFacebookを利用しています。
Facebookに登録して、X-Ability Co.,Ltd.さんや他の
アカウント登録 ログイン

X-Ability Co.,Ltd.
コンピュータ・テクノロジー

いいね！

タイムライン 基本データ 写真 いいね！ 動画

ユーザー >
いいね！38件

情報 >
http://x-ability.jp/

写真 >

山口 達明
11月14日 20:30

最近発売された山口達明先生の新刊「フロンティアオービタルによる新有機化学教程」の図には弊社開発のWinmostarが使われています。
http://www.amazon.co.jp/.../47.../ref=oh_aui_detailpage_o00_s00...

フロンティアオービタルによる新有機化学教程
フロンティアオービタルによる新有機化学教程
AMAZON.CO.JP

いいね！ コメントする シェア

X-Ability Co.,Ltd.さん (東京大学柏キャンパス)
11月9日 21:38